

教育相談

072-941-3365

情報推進

072-943-5785

研究・研修

072-943-5784

教育センター  
Web サイトは  
こちらから

「認め合い ともに生き未来を切り拓く八尾の教育」をめざして

## さわやかルーム「プレゼン大会」について

「タイムマシンがあったら、いつの時代へ行っ  
て何をしたい？」お昼休みのみんな活動で室内ゲ  
ームをしながら、このような何気ない会話をして  
いたことが始まりでした。その時は指導員も含め  
すごく盛り上がりました。子どもたちの反応は  
様々で、過去か、未来か、あるいは両方か。歴史  
で学んだ過去の世界やまだ見たことのない未来  
の空想の世界を自分の言葉で語る子どもたちの  
様子はとても興味深く、これを今年度のテーマに  
するのは面白いのではないかと、ということになり、  
今年度のテーマは「時空を超えて～過去へ！未来  
へ！タイムマシンに乗って」に決まりました。



テーマが決まってから、生徒たちは、自分の思いを、パワーポイントなどを使い、少しずつ形にしていきました。2学期の後半は、定期テストや実力テスト、そして受験勉強などがあり、非常に時間がない中でしたが、それでも発表会に向けて、それぞれが自分のペースで一生懸命作り上げていきました。

そして迎えた発表当日。今年度は、令和3年12月17日（金）に大研修室1で、プレゼン発表会を行いました。所員や指導員、実習生、そしてさわやかルームに通う生徒たちに見守られながらの発表となりました。当日、発表者として前に出られた生徒は1名でしたが、自作のスライドを使いながら非常に堂々と自分の言葉で語る様子は本当に素晴らしかったです。終わってから本人に聞くと、「すごく緊張した」ということでしたが、そんな緊張は見ている側には全く感じさせない堂々とした様子でした。参観者には評価表を書きいただきましたが、回収した評価表は肯定的な評価ばかりで、たくさんの記述もあり、本人の大きな励みとなりました。

また、当日発表することができなかった生徒たちも、後日、別室にて発表することができました。規模は違っても、自分の積み重ねてきた成果を発表まで結びつけたことには、生徒たちにとって大きな意義のあることだと思います。

さわやかルームに来ている生徒たちの中には、人前での発表を苦手としている生徒たちもいますが、しっかりと準備をして発表できたことに大きな達成感を感じられたことと思います。今年度も3学期を残すのみとなりました。残りの期間も、生徒個人を尊重し、一人一人それぞれのペースを大切にしながら、社会的自立に向けた取り組みを進めてまいります。

## 10年経験者研修について



7月に行った第2回の研修「授業づくり 授業改善の推進（理論）」で学んだことを生かして、2学期にそれぞれの学校にて行った授業実践について、事前に提出したレポートと学習指導案をもとに、少人数のグループでの検討を中心とした研修を令和3年12月27日（月）に行いました。

「今求められる資質・能力を育む授業づくり」について、「主体的・対話的で深い学び」を実現できたかどうか、「学習評価をいかした授業づくり」について、付けたい力の明確化とねらいに対する子どもの学習状況の見

取りを指導にいかす授業ができたかどうかという2つの視点を中心に協議を進めました。

協議は小・中別々のグループで行い、その後各グループの協議内容について、全体で共有を図りました。交流の中で、自身の実践について客観的な意見をもらい、より深めることができたり、他者の取組みからヒントを得たり、今後の授業づくりに生かすことのできる研修となりました。

（受講者の感想）

- ・授業づくりについて、そのベースとなるもの、何をめざして日々の授業を考えるのかを改めて学ぶことができました。他の先生方の実践から具体的な取組みを知れたのもありがたかったです。

- ・他の先生の自分が実践したことのない授業展開、工夫を聞かせていただき、とても勉強になりました。特に、ロイロノートに関して自分が今、授業の中にどう組み入れていけるか迷うところが多かったので、今日学んだことを自分なりに活用していけるように今後もっと勉強していきたいです。

- ・求められる資質・能力を育む授業づくりと学習評価をいかした授業づくりの成果と課題についてたくさんの意見を聞く機会となりました。私が参加させていただいたグループでの話し合いの中でも、それぞれの課題があり、それをどう解決していくかを考え、次に活かすことがとても重要だと感じました。いかなる授業においてもゴールを設定し、成果と課題を客観的に分析し、次につなげていけるようにしたいと感じました。

- ・グループの先生方と指導案の交流をするだけでも、自分自身では気づかなかったことや、今後に活かせるようなことが分かりました。また、全グループの発表を聞いたので、普段なかなか交流ができない中学校の先生がされている取組みや工夫を知れたのでよかったです。教科によってグループを変えたり、ロイロノートを活用して学習状況を判断したりすることは小学校でも活用できそうでした。

- ・他校の教諭と多角的に指導案を見直すことで、自分では意識していなかった自分の授業の良い点について気づくことができた。10年目にしても、なかなか自信をもって若手教員に指導などできなかつたところに少し自信がつき、これから力を発揮していこうと思うことができた。





## 小中一貫教育担当者研修について



令和4年1月14日(金)第2回 小中一貫教育担当者研修 『小中一貫推進 ～小中一貫教育推進事業の総括～』を行いました。

令和元年度から各中学校区での「めざす子ども像」を達成するために小学校・中学校の9年間で進めてきた、小中一貫教育推進事業の総括と来年度以降の教育活動について協議しました。

本研修では、関西大学総合情報学部の小柳和喜雄教授を研修講師として招聘し、「小中一貫教育推進事業の総括について」と題

した講義を受けるとともに、八尾市の小中一貫教育推進事業について総括し、各中学校区の特色や取り組みについての整理をしました。

「他の中学校区の総括をみることで良かった。他の中学校区の取り組みや総括を参考に、次年度以降の自分たちの中学校区の取り組みにいかしたい」といった感想がみられました。

## 首席研修について

令和4年1月6日(木)第2回 首席研修 『「力のある学校」をつくる』を行いました。

この研修では、学校の中核となる人材の育成を図り「学校力」の向上をめざすこと、また学校全体の在り方について考え、教職員のリーダーとしての自覚を高めるとともに資質の向上を図ることをねらいとして実施しました。

本研修では、大阪大学人間科学研究科 志水宏吉教授を招いてご講義いただきました。

研修では、志水教授が考案されたスクールバスモデルについてお話がありました。その中で、一番大事なバスのエンジンに当たるのは、「気持ちのそろった教職員集団」であるという話がありました。管理職や首席がリーダーシップを発揮し、教職員が同じベクトルを向くことが、「力のある学校」を築くには欠かせないということでした。



### 【受講者の感想】

・力のある学校は「教師のベクトルがそろっている」という言葉は本当にそうだと改めて感じました。また、その同じベクトルを向くためにはデータ（児童の現状）に基づいた方針を立てることが大切であることも、今後の自分の考え方にも生かせると感じました。

・本校にも家庭環境や学力に課題のある生徒が多数在籍しています。以前から継続して行ってきた人権学習や集団作りの重要性を全教職員で改めて共有し、ベクトルを合わせて教育活動に取り組んでいきたいと思いました。

## 所内の新型コロナウイルス感染症対策について

八尾市教育センターでは、新型コロナウイルス感染予防のため、引き続き「換気・消毒・密集の回避」等に取り組みながら業務を行っています。

①換気については、入口の常時開放や研修・相談中の窓の開放、執務室の定期的な換気を行っています。

②消毒については、相談受付や研修入口に消毒液を設置し、入館時の消毒をお願いしています。また、来所者用のスリッパについては使用後回収箱に入れていただき、消毒したのちにくつ箱に戻すようにしています。

③密集の回避については、相談室へのアクリル板の設置や教職員研修のオンラインでの実施、昼食時の黙食等に取り組んでいます。

大阪府ではいったん新型コロナウイルス感染者数が落ち着いたかに思われましたが、新型変異株の出現により感染者数が大きく増加し、感染第6波といわれる状況になっております。生活の様々な面に影響が出ており、子ども達も不安になることもあるかと思えます。お子様のことで気になることがありましたら、教育センターまでご相談ください。



## 教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っています。今回は12月から1月に入った雑誌名と目次の一部を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）1月号

- ・特集1 学習の改善に生かす評価
- ・連載2 脳科学から見たガイダンスカウンセリング

「道徳教育」（明治図書）1月号

- ・特集 GIGA スクール時代の情報モラル教育

「こころの科学」（日本評論社）通巻220号

- ・特別企画 嫌悪 ネガティブな感情はなぜ生じるのか

「こころの科学」（日本評論社）通巻221号

- ・特別企画 解離に出会うとき

「そだちの科学」（日本評論社）No.37

- ・特集 学習の遅れを支える ー限局性学習症のいま

「月間学校教育相談」（ほんの森出版）1月号

- ・特集1 教師の失敗談を子どもに語る
- ・特集2 児童生徒からの贈り物の意味を考える

「特別支援教育」（東洋館出版社）冬号

- ・特集 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を終えて  
レガシーとして「心のバリアフリー」を残していくために

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育連盟編集、東洋館出版社）1月号

- ・特集 「いまの学びが、将来をつくる～生活を豊かにする学び～」

「初等教育資料」（文部科学省編集、（株）東洋館出版社発行）1月号

- ・特集Ⅰ 「1人1台端末等の効果的な活用②」
- ・特集Ⅱ [体育]学習指導要領における指導のポイント  
運動領域と保健領域との一層の関連を図った授業づくり

「中等教育資料」（文部科学省編集、学事出版）1月号

- ・特集 「高等学校の学習指導と学習評価の工夫改善③」〈数学・理科・家庭〉
- ・教育小景 森岡 裕策（公益財団法人日本スポーツ協会 専務理事）

教育科学「国語教育」（明治図書）1月号

- ・特集 国語の「個別最適な学び・協働的な学び」

教育科学「社会科教育」（明治図書）1月号

- ・特集 必修化で変わる今こそ知りたい地理教育
- ・小特集 「SDGs」を社会科授業にどう取り入れるか

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集、東洋館出版社）1月号

- ・特集 資質・能力ベースの単元をいかに設計するか② ー徹底分析・データの活用ー

